

## 自分自身に向き合えた留学生活

函館校 国際地域学科  
地域協働専攻 地域政策グループ 4年  
鶴尾夏野子

留学先：台湾

留学先大学：台北市立大学

留学期間：2018年2月～2019年1月

### \*留学のきっかけ

私は大学2年の夏休みにカナダ・トロントに約1か月間滞在し、ホームステイ・海外でのボランティアを経験しました。それがきっかけで、より長期間海外で生活してみたいという思いが強くなり、交換留学に行くことを決めました。また大学入学以降、中国人・台湾人の方々と知り合う機会が多く、中国語への興味が高まっていったため、留学先は台湾にしました。大学3年の夏に社会福祉実習に行き、翌年の2月末から留学を開始しました。

### \*現地での学習

前期は留学生向けの台湾華語初級（中国語）の授業（週2回合計6時間）と現地の学生と同じ授業の両方を受講しました。私以外の留学生（中国以外）は韓国人2名のみだったので、中国語の先生方は、少人数という利点を活用して工夫した授業を行っていただきました。教科書の代わりに先生が作成してくださった資料やプリントを使用し、中国語の基礎文法・発音を学びました。会話練習や討論が中心だったので発言の機会は多く、質問があれば直接すぐに聞けるような雰囲気でも、また、先生は学生それぞれの弱点（私の場合は発音）や改善の方法を個別に教えてくださったので、効率的に学習を進めることが出来ました。先生はよくおやつや飲み物を買ってきてくださったり、学期末には台北郊外の観光地に連れて行ってくださったりと、とてもフレンドリーで、私たちも楽しんで中国語を学べたと思います。



学校のグラウンド

やはり最も苦労したのは、現地学生と同じ授業（一般教養・学部の授業）を受講することです。初めは授業の内容をまともに聞き取ることも出来ず、何が何だか分からない状態で不安で仕方ありませんでした。しかし、親切な先生方・英語や簡単な中国語で説明してくれたクラスメート達のおかげで、徐々に授業にも慣れていくことが出来ました。具体的には、教育倫理に関する授業や、台北の歴史を扱った授業などを受講し、宿題やレポートについては、自分で作成したものを友達に添削してもらいました。

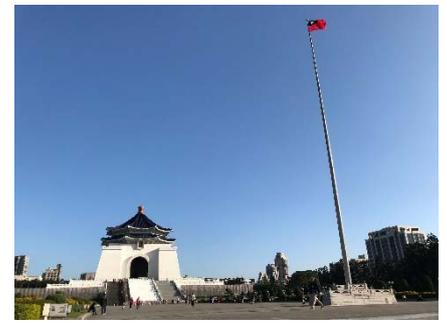


台北の夜景

前期はとにかく中国語と台湾での生活に慣れることに必死だったと思います。私は大学1,2年の時に第二外国語として中国語の授業を受け、HSK4級を取得している状態で台湾での留学を始めました。しかし留学当初は、自分自身が想像していた以上に中国語でのコミュニケーションに苦戦し、友達や先生が話している内容を聞き取るのも難しかったです。またリスニング力を鍛えるために教科書のCDを沢山聞いたり、単語をどれだけ覚えても、自分の成長が一向に感じられずに落ち込んだことは何度もあります。しかし語学は、多くの時間を費やしてこそ初めて上達を感じられるものなので、諦めずに努力を続けました。

後期は前期同様、現地学生と同じ授業（一般教養・学部の授業）を受講しましたが、留学生向けの授業は受講できなかったため、他大学の語学センターに通いました。前期に比べると、授業内容の理解度は上がりましたが、専門用語が頻出する授業ではまだまだ聞き取れない部分が多かったため、クラスメートに助けをもらいながら学習を進めました。最新のアプリやソフトウェアを活用した教育方法についての授業や、台湾の環境保護活動に関する授業など、とても興味深い内容のものばかりでした。

私は、前期・後期とも国際交流サークルに参加し、活動の一環として日本語に興味のある学生達の日本語学習をサポートしました（週1回程度）。初めは中国語で日本語のルールや文法を教えるのに苦労しましたが、この活動を通して多くの学生と知り合うことが出来たし、意欲的に日本語を学ぶ彼らの姿勢を見て刺激を受け、自分のモチベーションも上がりました。



よく散歩をしに行った中正紀念堂

## \*日常生活

学校の寮は6人部屋で、私以外のルームメイトは台湾人という状況でした（台湾の新学期は9月からなので、留学前半と後半でルームメイトは入れ替わりました）。初めは馴染めるかどうか心配でしたが、みんなで一緒に夜食を食べたり、日本と台湾の文化・習慣の違いについて夜遅くまで語り合ったり、また時には夜市に出かけたり散歩をして、多くの時間を彼女たちと過ごし、共同生活を楽しむことが出来ました。



台湾名物の牛肉麵

私は親しい友達に恵まれ、よく一緒にご飯を食べに行ったり、旅行をしたり、実家に連れて行ってもらいました。中でも中秋節（台湾の中秋の名月）をルームメイトの実家で過ごしたのが印象的で、大勢の家族・親戚の方々が集まり、満月を眺めながら外で焼肉をする、という台湾独自の文化を私も体験することができ、とても感激したことを覚えています。素敵な友達やご家族のおかげで、台湾の家庭料理を堪能したり、台湾の大自然に触れたり、様々な貴重な経験をさせていただいたので、本当に感謝しています。こういった体験は長期留学だからこそ得られたものだと感じています。

長期休暇は2か月間と長かったため、前半の1か月は、台湾人の友達と台湾東部を旅行したり、海外にいる友達に会うために、中国・韓国・香港・マカオを訪れました。後半の1か月間は、他大学の語学センターで開催されていた中国語学習プログラムに参加し、有意義な時間を過ごすことができたと思います。

## \*心がけていたこと

留学中、私が大切にしていたことが2つあります。1つ目は、台湾人と会話する機会を沢山持つ、ということです。語学力を上げるためには、やはり会話練習をするのが最も効果的だと感じていて、そのために時間があるときは必ず台湾人の友達と会って一緒にご飯を食べに行きました。もちろん、ただ会話練習の機会を増やすだけでは意味がないので、自分で基礎的な勉強や練習（単語量を増やす、発音を改善するなど）を続け、その上で会話の際に自分の知識をアウトプットするという流れを繰り返しました。初めの頃は、自分が簡単な文章は話せても相手の返答が聞き取れない、という状態が続き苦労しましたが、生の中国語に慣れていくうちに聞き取れる量が増えてきて、だんだんとコミュニケーションが楽しくなりました。

そして2つ目は、分からないことがあればすぐに聞き、疑問を残さないようにするということです。例えば、友達との会話の中で聞き取れない単語が出てきたらすぐに尋ねて、忘れないようにスマホに単語の意味と発音をメモしたり、ニュースや動画を見ていて理解できない内容があれば、友達に会った時に聞いてみるなどです。疑問をそのままにしていると、その後困るのは自分なので、なるべくその場で解決するようにしました。親切丁寧に教えてくれる友達のおかげで、私の中国語の理解力はぐんと上がったと思います。

## \* 留学経験から得られたもの

私はこの留学を通して、自分に自信を持つことが出来るようになったと感じます。留学生活中は、毎日新たな発見があり充実した日々を過ごしましたが、同時に多くの挫折も経験しました。しかし挫折したことで、自分自身に向き合い、状況を改善するために自分はどうすべきなのか、また自分の成長のために最も重要な事は何か、といったことをじっくり考える機会を持つことが出来ました。そして、時間をかけてでも自分のペースで取り組み続けたことで、挫折を乗り越えることができ、その経験が自信にも繋がりました。

そして、以前に比べ自分の意見をはっきり表現できるようになったと思います。これは語学以前の問題ですが、留学前の私は、場を丸く収めるため、あるいは物事を円滑に進めるために、自分の意思をはっきり伝えず相手に合わせていたことがありました。しかし、台湾では、YES か NO かをはっきりさせること、好き嫌いをきちんと伝えることは当たり前であり、逆にそれが出来ないと相手に誤解を与えかねないし、何を考えているのか分からないと思われがちです。台湾での生活を通して、相手の立場に立って物事を考え、相手の意見を尊重しながら会話することと同じくらい、自分の意思を正確に相手に伝え、主張すべきことはきちんと主張するというのが重要であることに気づきました。

元々私は「語学力の向上」を留学の主な目的としており、目的の達成のために努力をしていました。しかしその過程の中で何度も自分を見つめ直すことが出来たため、結果的にこの留学は、自分自身に正面から向き合い自分を知る良い機会にもなったと思います。

## \* 留学を考えている方へ

留学前に現地の言葉はある程度マスターしておいた方が、間違いなくより楽しく有意義な留学生活を送ることが出来ると思います。私は留学前に勉強をしていたとはいえ、日常会話レベルには達していなかったため留学先で苦勞をしました。留学前に立てていた目標（中国語検定 2 級合格）は留学中に達成することができたのですが、もしも留学開始当初からある程度中国語が出来ていれば、より密度の濃い留学になったかもしれないと後悔している部分もあります。

もし今留学に行くかどうか悩んでいる方がいるのであれば、思い切っ行ってみたいと思います。もちろん留学にはそれなりの資金が必要ですし、それ以外にも心配事が絶えないかもしれません。実際私も留学を決断するまでかなりの時間を要しましたが、今振り返ってみて、留学をして本当に良かったと心から思いますし、台湾でお世話になった先生方からの教え、出会った友達との素敵な思い出は私にとって大きな財産となりました。皆さんも、自分のやりたいことがあれば、勇気を持って挑戦してみてください、応援しています！



友達との台南旅行